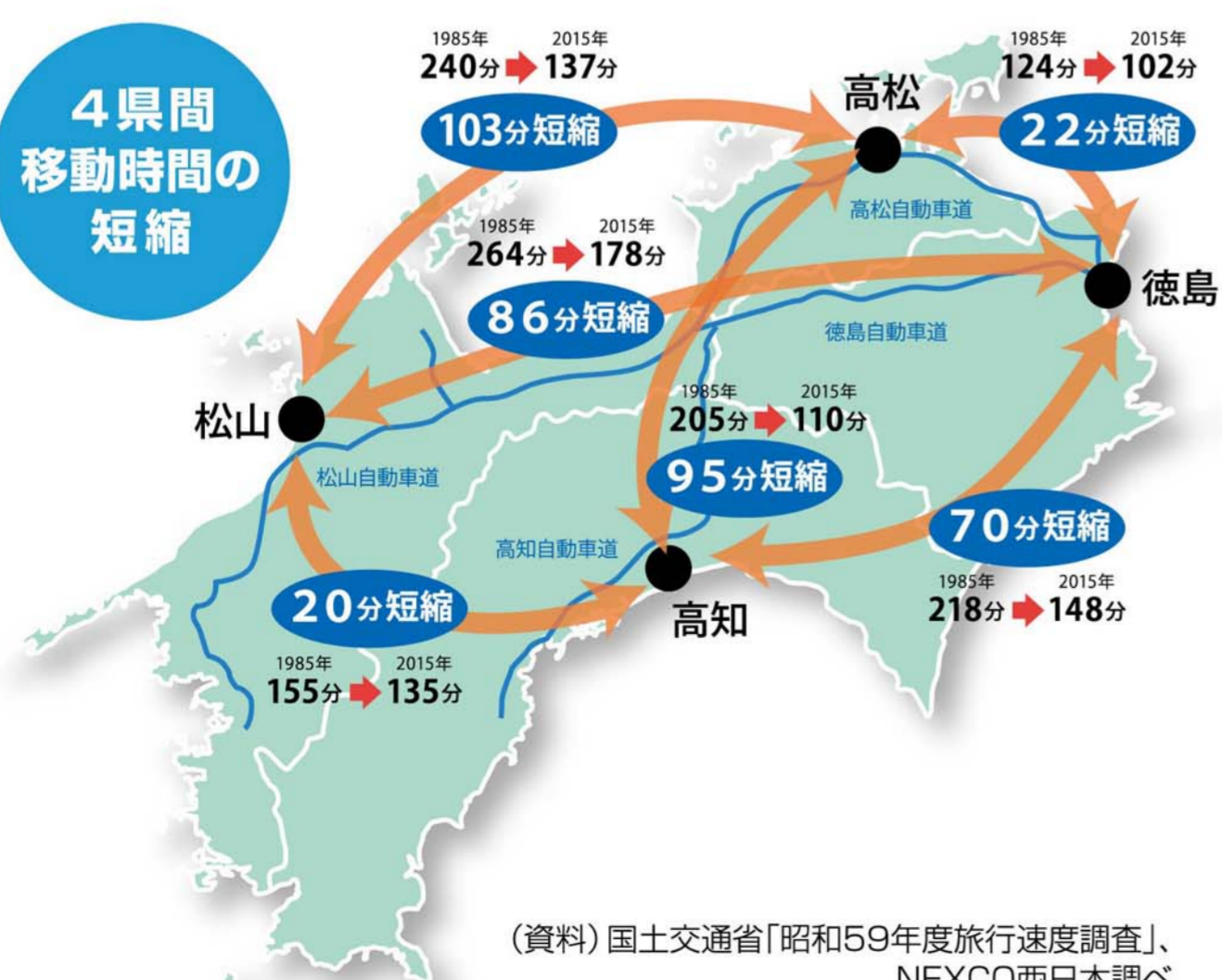
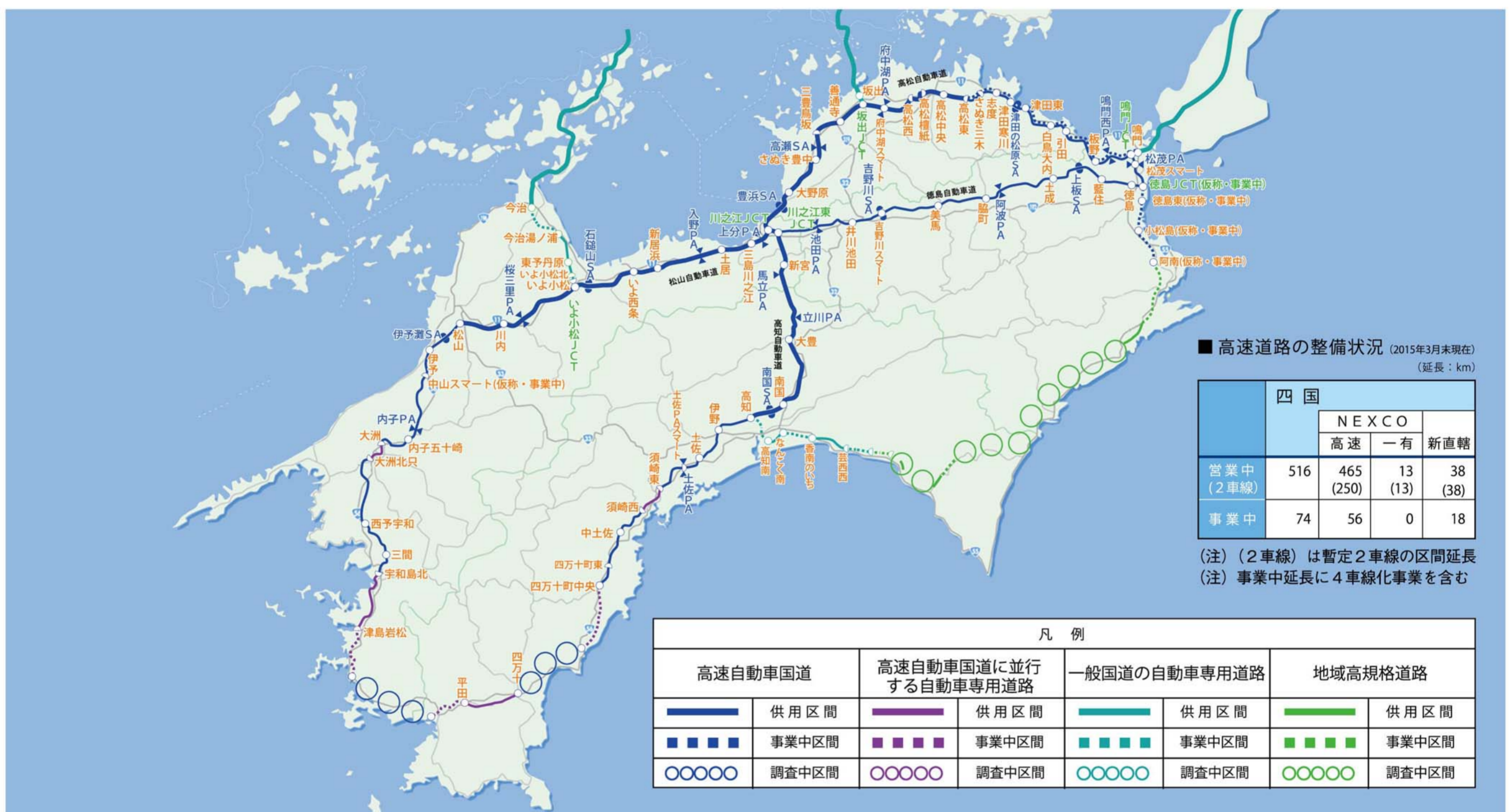


四国全域の整備効果

四国的高速道路ネットワーク

1985年3月、四国ではじめての高速道路として、松山自動車道 三島川之江IC-土居IC間の11Kmが開通しました。名神高速道路が開通してから実に20年以上もの遅れを取ったスタートでしたが、以降、高松自動車道、高知自動車道、徳島自動車道、今治小松道路と着実な整備が進み、30年の時を経た現在では、四国内の高速道路ネットワークは500kmを越えるまでに広がっています。



「便利で早い」を実感する

高速道路の整備により、四国内各県の県庁所在地間の移動にかかる時間は**最大100分程度短縮**されました。

また本四架橋の完成に伴って四国と本州の所要時間も大幅に短縮し、航路から陸路への転換が進むなど、よりスムーズな移動が可能になりました。